

平成27年度第4回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成28年1月21日（金）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、松浦委員、高田委員、齋藤トハ伊^ハ、青木委員（Skype）、
バンダ^ハ付^ハスタジオ
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

「様々な領域でイノベーションに関与できる問題発見・解決型 PBL 教育の仕組み」と「教育モデルを実現するための産業界・地域社会との連携内容」について提示された。その後、産学連携人材ニーズ交流会「大学教育での構想力の育成について」の説明資料が紹介され、提示内容について以下のような意見があった。

- ・ モデルとして、初年次から主体性を引き出し伸ばす教育プログラム、イノベーションに関与できる基本的な能力「構想力」を育成するテーマ、産業界・地域社会・大学間・教育機関と連携した分野横断型のオープンイノベーションを目指している。
- ・ 構想力育成のプロセスの図は、条件の策定など重要な部分を絞り込んで文字の大小などで工夫してはどうか。
- ・ 問題解決の部分は、効率性の表現について、合理性の面から課題解決の順序を決定するとした方がよいのではないか。
- ・ モデル化の部分は、論理的な構造図とはUMLなどモデル作成言語を意図していると補足された。
- ・ 発表会で15分程度の説明では形だけになる可能性があり、意見交換し何が問題かを議論する必要があるのではないか。ここでは、チームの中間検討会及びチームの最終検討会とすることにした。
- ・ 2年次のモデルは、1～2年に掛けての統合モデルとして考えられ、大学としての選択肢が広がるのではないか。
- ・ 例えば発表の時に、どのような価値があるか質問すると考えていない場合があり、価値を考える発想に至っていないと思われる。役に立つのか、つくる必要があるのかなど議論させることが大事ではないか。仮説立案部分の社会的価値とは別に観察力の中に価値や役割をいれてはどうか。
- ・ 対象のライフサイクルの知識獲得は、ライフサイクルにこだわらず様々な範囲を含めて、対象の知識獲得とし、開発から廃棄・再利用に至るライフサイクルと例示部分に記述してはどうか。
- ・ 対象の観察では、機能、使い方、役割、ユーザビリティなどを考えさせてはどうか。
- ・ 見直しや改善については検討会部分であるが、教育モデルには入る余裕がない。実際に見直し・改善のためには記録などのデータ取りが必要になってくる。
- ・ マネジメントは、要素の進捗状況を検討する程度として、集団指導と考える。
- ・ デザイン・コンテンツ系のテーマとしてプロジェクションマッピングが提案された。ハードとソフトの組み合わせによりコンテンツ全体の価値がでるものとなっている。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は、3月2日16時から開催することにした。
- ・ 教育モデルの検討を継続することになっている。